

英語の母語話者と非母語話者のインタラクションに おける理解困難な発話

ダグラス・ジャレル、ジェームズ・ベネマ、羽澄直子

Non-native Speaker Incomprehensible Utterances in Native and Non-native Speaker Interactions

Douglas JARRELL, James VENEMA and Naoko HAZUMI

ある言語の母語話者 (native speaker, 以下本文中ではNSと略して示す) と非母語話者 (non-native speaker, 以下本文中ではNNSと略して示す) が母語話者の言語で会話をかわす時、どのようなNNSの発話がNSにとって理解しにくいものとなるだろうか。本論の目的は、NNSの日本人英語学習者と英語NSとの英語での会話のなかで生じる、理解困難な発話の原因を検証することであり、その分析においては、意味理解のためのやり取り (ネゴシエーション) が会話のなかに現れることを想定している。一般にネゴシエーションのための相互交流 (インタラクション) では、話者はインプットおよびアウトプットが互いに理解できるものになるよう協力しあう。NNSとNSのインタラクションに関しても、理解可能なアウトプット (Pica et al., 1989; Shehadeh, 1999) および理解可能なインプット (Chiang & Dunkel, 1992; Deen, 1995) が重視され、分析が行われてきた。相互理解達成のためのネゴシエーション、なかでも互いの意味理解のために必要となる言語的修正のやり方は、NNSにとっては有益な言語学習方法となる。このやり方によって、理解可能なインプット (Long, 1983) を導くインタラクションの調整や、アウトプットのわかりやすさに対するフィードバックと理解可能なアウトプットへの修正のための重要な調整 (Swain & Lapkin, 1995; Pica, 1994; Van den Branden, 1997; Nobuyoshi & Ellis, 1993) が促進される。

インタラクションに関する従来の研究では、相手に通じず理解されないアウトプット (incomprehensible output, 以下文中ではIOと略して示す) は単一の問題として扱われ、個々のIOの原因は必ずしも分けられてこなかったが、本研究ではIOの個別の原因を分類確認することに主眼を置く。NNSの日本人英語学習者の英語がNSに通じない理由を具体的に知るとは、英語学習者にとって日常生活で実際に英語を使う際の大きな助けとなり、学習効果が高まると考えられるからだ。

本研究では、日本人英語学習者の英語の発話が相手に理解されない主原因は発音、特にカタカナ風に英語を発音する「カタカナ風英語」にあるという仮説をもとに発話の分析を行った。本論著者たちが勤務する名古屋女子大学では、2004年度から海外の指導者を招いて英語のティーチャー・トレーナー・プログラムを継続しているが、プログラム実施の過程で明らかになったことの一つは、日本の英語の授業でのインタラクションは、日本での居住期間の短いNSにとっては特に音声面において理解しにくいという点である。日本人が英語を話す時にしばしば直面するのは、母音と子音を組み合わせる発音をいかに避けるかという問題である。一つ一つの子音に母音を加えてカタカナ風に英単語を発音すれば、ネイティブの英語の発音とは

かけ離れてしまうことがある。たとえば ‘strike’ という単語は日本語 (カタカナ) で表記すると「ストライク」であり、これに影響されていわゆるカタカナ風に発音すると、ヘボン式ローマ字で表せば「su-to-ra-i-ku」(発音記号では [sutoraikuu]) という5つの母音を含む5音節となる。しかし英語の発音では ‘strike’ は [straɪk] で、二重母音を一つだけ含む1音節の語なのである。ティーチャー・トレーナー・プログラムに携わる海外の指導者からは、日本に長く居住しているNS教員には容易に聞き取れて理解できる日本人の発音が、カタカタ風英語に慣れていないNSには通じにくいとの指摘があった。そこで今回は日本人英語学習者の引き起こすIOの特徴を検証するにあたり、日本人との接触経験の少ないNSを調査協力者に選び、彼らと日本人NNSとの英語によるインタラクションを分析することにした。

方法

日本を訪問中のカナダ人6名と、名古屋女子大学国際言語表現学科で英語を専攻する学生12名が、NS-NNSのペアを組み、10分間英語で話をし、その様子を録音する。NSとNNSは初対面である。各NSには4名の異なるNNSと会話をしてもらい、延べ24組のペアによる240分の会話記録を得たのだが、そのうちの20分間は機器の不備のため再生できず、分析対象は220分間の会話となった。18名の調査協力者には、お互いを知るために10分間自由に英語で会話することを依頼した。このような自己紹介を兼ねた自由会話は、教室の外、特に海外でのホームステイで学生が体験する自然なシチュエーションでのインタラクションを模すものである。

6名のNSは旅行のため日本に1週間滞在していたカナダ人で、60～70歳代の3組の夫婦である。6名とも幼少時にオランダからカナダへと渡った移民であるが、母語は英語であるとの認識を持っている。今回の調査の目的については、NSとNNSのインタラクションの分析のためであるとだけ伝え、協力を依頼した。

12名のNNSの学生の内訳は1年生から4年生まで各3名で、4年生は半年以上の英語圏への留学経験者を選んだ。他学年の学生については、初対面の相手と英語でコミュニケーションを取れる気質であることを主たる条件として選び、調査協力を依頼した。

実施日は2007年(平成19年)10月23日(火)。場所は名古屋女子大学天白学舎。調査にあたっての仮説は次のとおりである。

- ・IOの主たる原因は、日本人英語学習者のカタカナ風発音である。
- ・海外等でカタカナ風発音の特徴を知らないNSと接する機会が多かった学生ほど、IO発生率が低く、特にカタカナ風発音に起因するIOが少ない。

結果と考察

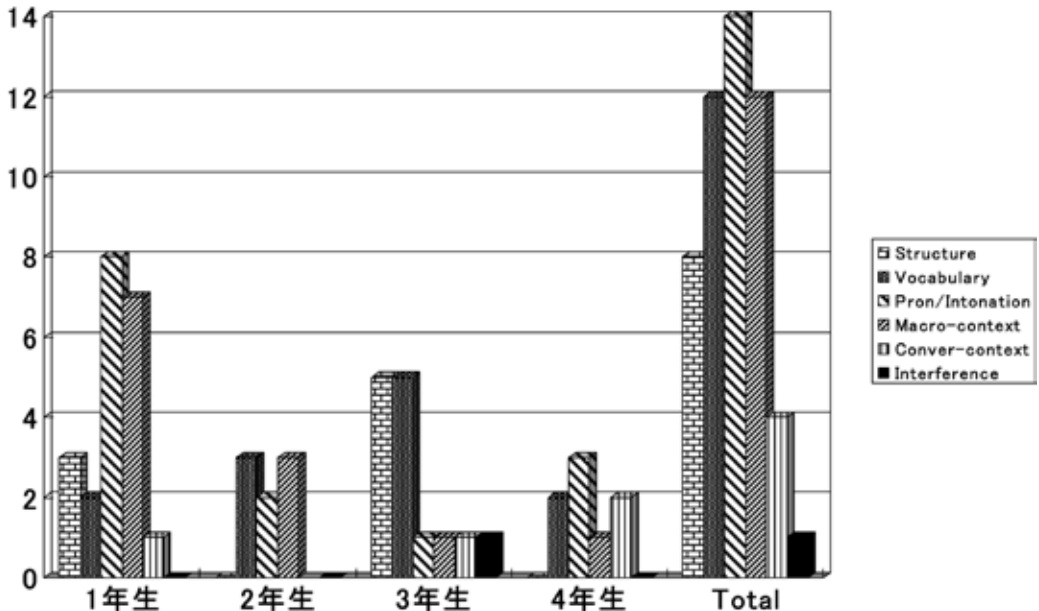
まず本論の3名の共著者および共同研究者の江守キャサリーンが録音された会話をチェックし、NNSの日本人学生の発話がNSに理解されない事例、すなわちNNS側に原因があると思われるIOを抽出した。IOと判断されたのは、NSがNNSの発話の意味を聞き返して確認したり、長い沈黙やちぐはぐな反応といったインタラクションのほころびが出たりした場面である。次にそれらのIOを6つのカテゴリーに分類した。最初の3つのカテゴリーは、“structure”(文法の不備)、“vocabulary”(言葉の選択の不備)、“pronunciation/intonation”(発音またはイントネーションの不備)で、これらは発話の内容ではなく、言葉の選択や発し方の不適切さでIOが生じたケースである。残りの3つは自分の知らない話題がのぼったため相手の発話内容が理

解できなくなる“macro-context”（社会文化的コンテキスト）の問題、会話の展開が不自然で相手の発話の意図が理解できなくなる“conversational context”（談話・語用的ルール）の問題、そして周囲の騒音等の物理的環境に関わる“interference”というカテゴリーである。カテゴリー分類に関しては、前述のとおり先行研究では個々のIOの原因が必ずしも区分けされていないため、本研究者が共同で発話を検証し、独自の分類をおこなった。

分析の結果、一つのカテゴリーだけがIOの原因となるケースは少なかった。今回の会話から抽出されたIOは51例だが、その原因はカテゴリーの組み合わせにより、90種類に及ぶ。それぞれのIOでどのカテゴリーが主原因に相当するかについては、4人の共同研究者が協議のうえ決定した（抽出されたIOの一覧は文末の表1に記す）。なお本研究においてはまずはIOの主原因を知ることを目的としたため、文中には検定されたデータではなく、実数を示している。

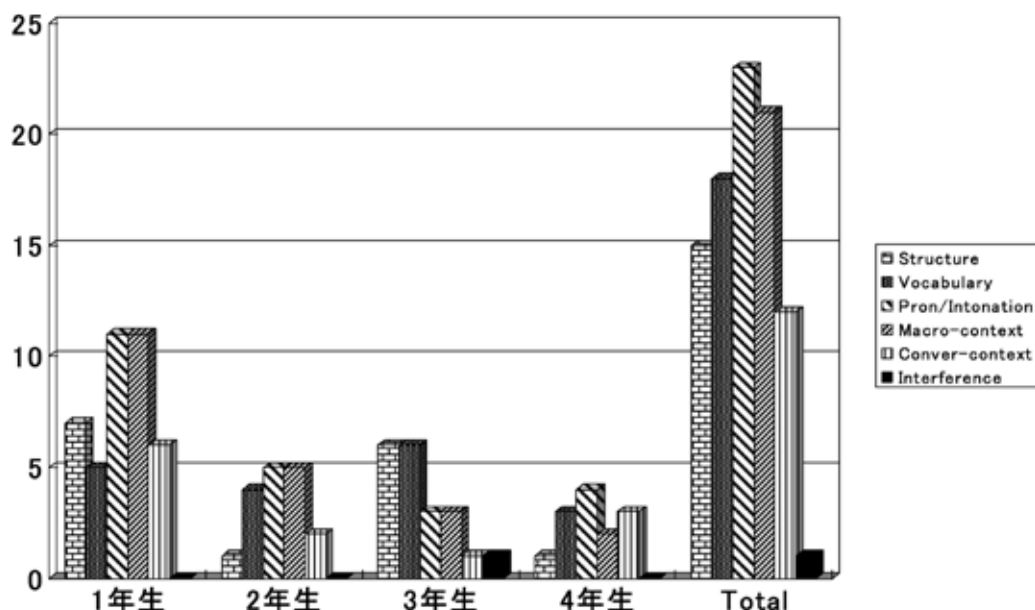
図1はIOの主原因をカテゴリー別に示したもの、図2はIOのすべての原因を合計したものである。

図1 IOの主原因



主原因も全体も“pronunciation/intonation”が一番多いが、次点の“macro-context”との差は顕著とはいえない。“pronunciation/intonation”の範囲は広く、ネイティブの発音からの逸脱が大きすぎて相手の理解を阻んでいると本研究者がみなしたものはすべて含まれる。51例のうち「ga-a-ru-zu」（‘girls’のローマ字表記、1A-6、以下カタカナ風英語を文中で示すときは、日本語発音の影響であることを示すためにローマ字で表記し、一重かぎカッコでくる）、「i-me-i-ji」（‘image’, 1B-1, 1B-6）といった、1音ごとに母音を加えて発音するカタカナ風発音を含むIOは15例確認された。1年生と4年生では、“pronunciation/intonation”がIOの原因に占める割合はあまり変わらなかったが、実数を見ると1年生の方がはるかに多い。“pronunciation/intonation”の具体的な原因には学年による違いがみられる。1年生、2年生、3年生のカタカ

図2 IOの原因 (すべて)



ナ風英語 (表1に「KE」と表記) の数はそれぞれ9回、4回、2回で、日常での使用頻度の高い単語のカタカナ風発音もあった。「ra-i-ta-a」(‘writer’, 1A-3), 「ga-a-ru-zu」(1A-6), 「fa-i-ya-a」(‘fire’, 1B-4) などである。しかし4年生にはIOを誘発するようなカタカナ風英語はみられなかった。4年生の発音のつまずきは、‘hula’を [fula] (4C-1) と発音するといった/h/と/f/の混同や、‘Aldergrove’ (4B-3) のような/v/と/b/の区別と複数音節の語の強勢の位置といった、上級レベルの日本人英語学習者でも間違えやすいものであった。

次に多いIOの原因は、“macro-context”である。例えば日本の食べ物、県、習慣 (club team, 1A-5) といった、NSにはなじみのないものが話題になると、インタラクションに影響が及ぶ。片方の話者だけが持つ特定の興味関心事項 (working holiday, 1C-5; conversation partner, 2C-3) に言及された時も同様である。このようにIOの要因がマクロレベルだった場合は、言語レベルでの修正によって理解への到達を図ることができる。今回のケースでは‘working holiday’や‘conversation partner’の意味が理解できなかった時、NSはNNSに詳しい説明を求めなどやり取りを重ねることによって、相手の発話を理解しようとした。ただし今回はNNS側に、詳細を説明するための英語力が不足する学生もいたため、このネゴシエーションが有効に進まないケースが見うけられた。

結論

前述のとおり調査に先立ち、NSとNNSの英語でのインタラクションにおけるIOの主たる原因はNNSによるカタカナ風英語にあること、英語学習が進むにつれ、また英語圏での生活を体験することによって、カタカナ風英語の数は減少するという仮説を立てた。発音がIOの原因となる割合については1年生と4年生に大きな差はみられなかったが、仮説どおり、英語の学習を重ねることや留学先で頻繁にNSと接した経験を持つことにより、カタカナ風英語が減

少することが調査の結果示された。1年生の場合、カタカナ風発音があまりにも顕著で、‘girls’という簡単でよく使われる単語ですら相手に伝わらないケースが見うけられた。カタカナ風発音となった単語（club, team, girls, image等）の多くは日本語のなかに定着している外来語である。そのため日本人学生は通常の日本語での会話で使い慣れている発音をしてしまったのではないか。

IOには複数の要因がある。51例のIOのうち、原因を一つに特定できるものは10例（19.6%）にすぎない。IOへの発音の影響力の大きさは、原因を一つに特定できる10例のうち、“pronunciation/intonation”に分類されるものが6例あることから示される。そのなかの1例は、NSにとっても時には注意深い発音が必要となるケース（fifty, 3A-2）であるが、3例は外来語としてよく使用される単語のカタカナ風発音（writer; girls; golden retriever, 2A-1）である。残りの2例は、/f/ と /h/ の区別（hula）と地名（Aldergrove）で、後者には /l/, /r/, /v/ といった日本人の苦手な発音や、強勢の位置（‘Aldergrove’のアクセントは第一音節）の問題が含まれる。発音のなかには、上級レベルの日本人英語学習者でも習得が難しいものがあるが、カタカナ風英語のように学年が上がり学習が進むにつれ減少するものもある。これは、カタカナ風発音の矯正は英語学習の初期段階から取り組むことが可能で、効果も期待できることを示唆している。日本人英語学習者がカタカナ風発音を克服することは、「NSに通じる英語」を使える技量を身につけることにつながるのである。

今回の調査のNS-NNSの会話は、複雑な言語活動ではあったが比較的自由な設定のなかで行われた。参加したNNSの学生が、自分が自信を持って使える単語や表現で会話を進めようとするのは自然な感情であろう。しかしそのため彼女たちが使用した単語や表現が限られたものになってしまった感は否めない。12名のNNSのなかには英語運用能力の弱い学生がいたにもかかわらず、220分の会話のうちIOが51例しか散見できなかったことには、失敗を避けたいという話者の心理的要因が反映されたのではないかと推察される。Shehadeh（1999）は、絵や写真を描写するといった複雑なタスクでは、参加者による相互理解達成のためのネゴシエーションが活発になると指摘する。従ってもし今回、より複雑な言語活動が必要となるタスクを調査協力者に依頼していたら、ネゴシエーションの活発化にともない、特にボキャブラリーやストラクチャーに由来するIO例が増えたかもしれない。

NSの選定の仕方が調査結果に影響を与えることもあるだろう。今回のNSは日本に短期滞在中の6名のカナダ人であったが、年齢幅は小さく（全員60～70代）、オランダ系カナダ人というバックグラウンドも共通するなど、バラエティーに乏しい。またNNSの学生との大きな年齢差が、“macro-context”を起因とするIOを増やした理由ではないかとも思われる。

本研究でのIOの原因分析から導かれることはまず、相手に理解できない発話が発生する要因は概して単一ではなく、潜在的な問題が集積された結果という点である。カタカナ風英語のような発音の問題が、特に英語学習の初級者にはIOの大きな原因になりうることも示された。しかしながら本研究での調査はまだ規模が小さく、普遍的な結論を出すには十分とはいえないため、今後さらなる調査研究を深めていく必要がある。

本研究は平成19年度財団法人市原国際奨学財団研究助成による研究成果の一部である。末尾ではあるが付記して謝意を表する次第である。

参考文献

- Chiang, C. & Dunkel, P. (1992). "The Effect of Speech Modification, Prior Knowledge and Listening Proficiency on EFL Lecture Training." *TESOL Quarterly*, 26, 345-374
- Deen, J. (1995). "Dealing with Problems in Intercultural Communication: A Study of Negotiation of Meaning in Native/Non-native Speaker Interaction." Unpublished doctoral dissertation, University of Groningen, Groningen, The Netherlands.
- Long, M. (1983). "Linguistic and Conversational Adjustments to Non-native Speakers." *Studies in Second Language Acquisition*, 5, 177-193.
- Nobuyoshi, J., & Ellis, R. (1993). "Focused Communication Tasks and Second Language Acquisition." *ELT Journal*, 47, 203-210.
- Pica, T., Holliday, L., Lewis, N., & Morgenthaler, L. (1989). "Comprehensive Output as an Outcome of Linguistic Demands on the Learner." *Studies in Second Language Acquisition*, 11, 63-90.
- Pica, T. (1994). "Research on Negotiation: What Does It Reveal about Second Language Learning Conditions, Processes and Outcomes?" *Language Learning*, 44, 493-527.
- Shenadeh, Ali. (1999). "Non-native Speaker's Production of Modified Comprehensible Output and Second Language Acquisition." *Language Learning*, 49, 627-675.
- Swain, M., & Lapkin, S. (1995). "Problems in Output and the Cognitive Processes They Generate: A Step towards Second Language Learning." *Applied Linguistics*, 16, 371-391.
- Van den Branden, K. (1997). "Effects of Negotiation on Language Learners' Output." *Language Learning*, 47, 589-636.

表1 NNSの日本人学生による理解されないアウトプット
アルファベットA～Cの左側の数字は調査協力の学生の学年を示す

Student	Incomprehensible Utterance	Cause(s) of communication breakdown					
		Structure	Vocabulary	Pronunciation/ intonation	Coherence		
					Macro -context	Conversational context	Interference
1A-1	<i>Do you ever been abroad?</i>	Primary				Secondary (sudden shift)	
1A-2	I want to <i>foregin</i> friends.	Secondary		Primary			
1A-3	I want to be a <i>raitor</i> (writer)			Primary (KE)			
1A-4	I like western music and movie... I like <i>Johnny Depp</i> , do you know?		Primary (western music is interpreted as country-western)		Secondary (NS may not be familiar with Johnny Depp)	Secondary (NS has asked about line dancing – assumed topic was country music)	
1A-5	Now I teach...junior high school students. (NS: Where?) <i>kurabu chimu</i> .		Secondary (club-team)		Primary (in Japan high school graduates go back to help out old clubs – no corresponding tradition in West)		
1A-6	Ah... <i>gaaruza</i> (girls) only.			Primary (KE)			
1A-7	I want to see NBA... NBA basketball game... Do you know?	Secondary (missed article 'the')			Primary (NS may not be that familiar with NBA)		
1B-1	What <i>imeiji</i> do you have in Japan?		secondary	Primary (KE)	Secondary (inappropriate question in the west?)	Secondary (abrupt shift in conversation)	
1B-2	Especially <i>nana</i> .			Primary (KE)		Secondary (NNS missed topic shift)	
1B-3	<i>My fan izu Chunichi Doragonzu</i> .	Primary		Secondary (KE)	Secondary (NS has no knowledge of Chunichi Dragons)		

1B-4	stick on <i>faiyaa</i> (fire)		Primary		Secondary (NS is not familiar with sport)		
1B-5	I want to <i>du-ittu</i> (skiing)		Secondary (NS would normally use 'try')	Primary (KE)			
1B-6	<i>What imeji (image) do you have in Japan?</i>	Secondary (of Japan)		Primary (KE)		Secondary (abrupt shift)	
1B-7	I live in <i>Mie</i> .				Primary (NS unfamiliar with Japanese prefectures)		
1B-8	<i>How...gudu supiku English?</i> (How can I improve my English)	Primary		Secondary (KE)			
1C-1	Do you like <i>natto</i> ?				Primary (NS unfamiliar with food)		
1C-2	I have... <i>forin</i> (foreign) friend			Primary (forIN)	Secondary (Common in west to identify people by nationality)		
1C-3	<i>Capital, not capital</i>			Secondary	Primary (NNS unfamiliar with Canadian geography)		
1C-4	Can you eat <i>nano</i> ?				Primary (NS unfamiliar with food)		
1C-5	I want...uh <i>wakinguhoridei</i> (working holiday).			Secondary (no schwa sound on 'working', KE)	Primary (NS does not know about 'working holiday' visa)		
1C-6	<i>Where is she live?</i>	Secondary				Primary (NS assumes students know each other and doesn't anticipate question)	
2A-1	12. <i>gooruden retoribaa?</i> (golden retriever)			Primary (KE)			
2A-2	13. <i>samaa</i> (in the summer)- <i>kandoru</i> (steering wheel) is hot.	secondary	Primary	Secondary (KE)			
2B-1	I'm <i>Saeko</i> . (NS: Kaeko?)				Primary (NS is unfamiliar with Japanese names)		
2B-2	Do you... do you have any <i>petsu</i> ? (pets)			Secondary (KE)		Primary (sudden shift in topic)	

2B-3	conversation partner				Primary (NS is unfamiliar with 'conversation partner' program at this university)		
2B-4	<i>sarari</i> man (salary/business man)		Primary	Secondary (KE)	Secondary (descriptions of family members' jobs are usually vague in Japanese conversations)		
2C-1	I want to be a ... <i>kaabin</i> attendant ... <i>pl/rane...pl/rane assistant</i>		Primary	Secondary (stress on wrong syllable, kaBIN, and l/r confusion on 'plane')	Secondary (NS does not appear to be familiar with 'flight attendant' – instead uses 'stewardess')		
2C-2	I work at marriage hall now.		Secondary (NS unfamiliar with term 'marriage hall')		Primary (NS not familiar with marriage centers in Japan)		
3A-1	<i>Hoteru sutaffu</i> (staff at a hotel)		Primary (NS would use more job specific vocabulary instead of 'staff')	Secondary (KE)			
3A-2	50 minutes			Primary (didn't clearly stress first syllable)			
3A-3	Canada don't uhk spring and summer season? ... no nothing?	Primary					
3A-4	<i>It (taxi) drivers wearing white gloves) it's very... it's good... better</i>	Primary					
3A-5	<i>How much temperatures?</i>	Primary					
3A-6	<i>Your town you love? Love your town?</i>	primary					
3B-1	I have to study... maybe <i>forebau</i> .			Secondary (KE)			Primary (Speaking overlap)
3B-2	I retired (the ambition of becoming a teacher)		Primary				
3B-3	I miss Tim Hortons... and then... <i>Second Cup</i> (name of coffee shop chain)		Secondary (stress should be on first syllable)		Secondary (NS, from western Canada, is not as familiar with coffee chain from east coast of Canada)	Primary (shift of topic to different chain)	

3B-4	My names is <i>Kanoe Kageyama</i> .				Primary (NS unfamiliar with Japanese names)		
3C-1	<i>Can you use it Japanese?</i>	Secondary (two objects: 'it' and 'Japanese')	Primary (speak Japanese)				
3C-2	I'm taking a teacher's skill. (I am studying for my teacher's license.)		Primary (should say "studying for my teacher's <i>license</i> .)		Secondary (NS may not be familiar with Japanese system of licensing teachers)		
3C-3	What kind of things do you... did you teach?		Primary (switches to 'subjects')				
3C-4	Teacher iza... have some class?	Primary				Secondary (shifts back in conversation topic)	
4A-1	<i>Bali</i>		secondary			Primary (Italy was pronounced 'Italia' so NS interpreted Bali as 'Paris' with French pronunciation on the 2 nd syllable)	
4A-2	<i>share mate</i>		Primary ('sharemate' is an Australian term)				
4B-1	M-I-N-A				Secondary (unfamiliar with Japanese names)	Primary (common to confuse 'M' and 'N' sounds)	
4B-2	22 (NS: Ask me some questions?) Uh... What is your favorite?			Primary (lowering intonation on "favorite" while utterance was not yet complete)		Secondary (favorite what?... pause before completing)	
4B-3	Actually I lived in <i>Aldergrub</i> (Aldergrove)			Primary			
4C-1	I practice <i>fula</i> dance <i>fula</i> dancing.			Primary ('f' and 'h' pronunciation)			
4C-2	I understood which Chinese, Korean, Japanese (I could tell the nationalities apart.)	Secondary	Primary ('understand' instead of 'tell apart')				
4C-3	Do you know Marriot Associa?			secondary	Primary (NS unfamiliar with 'Associa' part of name)		

Abstract

This paper investigates English interactions between native speakers and Japanese EFL students, focusing on non-native speaker (NNS) utterances that were incomprehensible to native speakers (NS). In 220 minutes of recorded interactions between 6 Canadian NSs visiting Japan and 12 students, from 1st year students to 4th year students, 51 instances of incomprehensible output (IO) were found. The IO was analyzed by 4 researchers for the source of the communication breakdown and 6 categories were identified: structure, vocabulary, pronunciation and intonation, macro-context, conversational context, and interference. The results indicated that, in 80% of the instances of IO, an utterance was rendered incomprehensible by a convergent of 2 or more different causes. There is also limited evidence to support the hypothesis that Katakana pronunciation is a problematic area for 1st year students, while declining as a source of IO in subsequent years.

